

「日本経済入門」の採点結果 (100点+ で採点)

経済学部 経済学科 (1年次): 有効受験者 184名

- うち90点以上 9名 よく頑張りましたね。最高は100点です。
- 80点～89点 29名 気を抜かずに、これからも日本経済を勉強しましょう。
- 70点～79点 59名 日本経済を正しく理解するには、今後もうひと踏ん張り
必要です。
- 60点～69点 71名 可くらいで安心しては卒業後に苦労しますよ。今後
も新聞や教科書などをよく読んで、学生時代に日本経済
の知識を深めましょう。
-
- 50点～59点 6名 日本経済の勉強が少し足りませんね。出席率が高くない
人が多いようです。
- 49点以下 10名 日本経済の勉強がかなり不足しています。最低は40点
です。このほか、記述問題全問無回答の**不受** (有効受験
者にはカウントしていません) **が1名います**。

平均70.0点, 合格率91.3% (優21% + 良32% + 可39%)

分母は有効受験者

個人の点数を知りたい人は、原則として**メールで時間を約束してから研究室
に来て下さい**。研究室にいないことも多いほか、在室のときでも約束なしに突
然来られては困ります (アポなしの人は長居しないで下さい)。

(全体の印象)

まずまずの成績です。身近な日本経済のことですから、記述問題については回答しやす
かったのだと思います (逆に、一部の記述問題が白紙の答案もいくつかみられました。こ
れでは、点数がつく筈がありませんよ)。

これに対し、正誤問題の点数があまりよくなかったこと (正答率は2/3程度) が気にな
りました。世の中では、活字になっていても正しくないことがままありますので、皆さ
んも健全な判断力を身につけることが求められます。

また、ある程度真面目に勉強している人とそうでない人 (手を抜いている?) の二極分
化も目立ちます。皆さんの将来の社会人生活を展望すると、日本経済に関する知識は避け
て通れません。1年生の段階では「日本経済」という分野にはさほど興味がなかった人が
いたかも知れませんが、心を入れ替えて本気で挑戦することをお勧めします。

(個別問題の注意点)

日本の2005年度の実質GDP (2000年基準) は543兆円、名目GDPは505兆円で

す。基準年からの5年間でGDPデフレーターが低下したため、名目GDPに比べて実質GDPが上昇しているのです。物価が下落する現象のことを「デフレ」と呼びます。

日本の財政のプライマリー・バランス(基礎的収支)は、現在でも大きなマイナスです。授業でもお話ししたとおり、「2010年代初頭には基礎的収支を黒字化したい」というのが政府の目標です。

公共工事の面では、日本の都市部は人口に比べて優遇されていません。現在では、地方の優遇をやめることが徐々に進んでいます。

日本銀行が「量的緩和政策」を解除したのは2006年3月です。2006年7月に解除したのは「ゼロ金利政策」です。

日本の経常収支の黒字は、「GDPの1割」を大きく下回っています。経常収支の黒字幅は年間10~20兆円くらいですので、GDPの2~4%程度です。財・サービスの輸出(片道、GDPの10%を超えます)と経常収支の黒字(輸出等-輸入等)の違いに気をつけましょう。

失業率は、授業でもお話ししたとおり、景気の波よりもいくらか遅れて変動します。このため、「遅行指数」と呼ばれています(景気の波と一致する「一致指数」ではありません)。企業側が、雇用数の増減に先立って、時間外労働の増減で対応することが多いためです。

一般政府は、**中央政府**(いわゆる「国」)のほか、**地方政府**(「地方公共団体」とも呼ばれます)、**社会保障基金**によって構成されています。国だけがGDP統計などの「一般政府」ではないことに注意しましょう。

「京都議定書」の漢字を間違っていた人が沢山いました。社会人になって誤字があると、信用を失いかねません。誤字を書かないように気をつけましょう。

以上